



自治会ニュース in 尾張旭市

身近な自治会・町内会ニュースをお知らせください

平成28年4月
第15号

発行 / 尾張旭市 市民活動課 〒488-8666 尾張旭市東大道町原田 2600-1
URL <http://www.city.owariasahi.lg.jp/> E-mail siminkatudo@city.owariasahi.lg.jp
電話 (0561)76-8126(直通)、(0561)53-2111(代表) 内線 371,372
FAX (0561)52-0831

特集

自治会等活動促進助成事業の中間報告会 & 交流会 がありました

1月16日中央公民館にて、平成27年度自治会等活動促進助成事業の中間報告会兼交流会が開催されました。平成27年度、自治会等活動促進助成事業として選定された7の自治会等の団体から、事業実施(実施中)の報告があり、参加された皆さんは熱心に耳を傾けていました。

また、交流会では、各発表団体のブースを設置し、各ブースにおいて質疑応答や助成事業を通じて得たノウハウ等を伝えたり、歓談も活発に行われたりと、様々な団体間で交流を深めていました。交流会参加者は自由に移動し、興味のあるブースで話を聞けるため、複数のブースで話を聞いている方もいました。また、会議室中央にアンケート及び自由意見を載せるブースを設置したことで、助成金事業以外の話をするきっかけにもなりました。(アンケート結果については、後述の3. アンケート結果一覧のとおり)

1. 中間報告会に参加して・・・

学校法人菊武学園 名古屋産業大学 伊藤雅一 氏

他の自治体への広がり期待したい尾張旭市の地域活動

私は今日の中間報告会を大変楽しみにしていた。講評に入る前に少し話をさせていただきたい。旭丘連合自治会の皆様には、本日の中間報告会の参加について、名古屋産業大学・名古屋経営短期大学の学生にお声掛けいただくという教育的な配慮をしていただき大変感謝している。また、松ヶ丘町内会の皆様には、名古屋経営短期大学の講師を引き受けていただくという連携をしてもらっているし、瑞鳳連合自治会では、3月に名古屋産業大学の教員がハザードマップの作成に参加して、地域の防災力の強化に協力することになっている。今日発表された他の団体の方も、環境教育・環境フォーラム・広報誌の発行等の活動で地域連携の機会をいただき大変感謝している。

社会での経験豊富な皆さまの発表は、大変落ち着いた雰囲気でも分かりやすく、そして適切な発表であった。また、今日は中間報告会なのだが、中間報告会というよりも完了報告会の印象を受け、皆様の計画力・行動力に感心している。皆様の活動は大変素晴らしいので、市内外に広がっていくとよいのではないかと常々思っている。各団体の講評に入りたいと思う。

旭丘連合自治会は、地域の課題としてごみ減量・資源ゴミの回収があると思うが、その地域の課題に対して、経営的な視点に立って解決するために活動し、名古屋産業大学の学生も巻き込む等、活動の輪を広げていくということをしている。他の自治会等にも参考になると感じた。

パークシティ三郷町内会のクオリティ大会は、元々旭丘連合自治会が導入したものであるが、パークシティ三郷町内会が地域の課題を解決するために旭丘連合自治会の物を参考に実施したのだと思う。後程行われる交流会での自治会間交流の成功例の一つだと思う。

松ヶ丘町内会の活動は、ウォーキングを他町内会と合同で行ったり、筋トレ・元気まる測定の活動の結果を講師として大学に伝える等、連携を重視したものになっていると感じている。

山の手自治会は、元々防犯活動に力を入れており、先進的な活動をしていたが、今回それをさらに発展するような形で自治会の活性化を目指し、活動をしていた。その中での自治会加入率100%、買物弱者への支援対策等の活動は他地域に広がっていくとよいと感じている。

旭台自治会はこれまで先進的な活動をしており、他自治会を支援する等NPO的な活動もしている。その中で交流サロン・健康サロンの活動をしているのだが、その中での救急車の出動実績の分析はなかなかできないものだと思う。これには大変驚いた。こういった分析による地域活動は、地域の方もとても安心されると思うので、この活動が他自治会に広がれば、名実ともに尾張旭市は健康都市としてシティセールスがしていけると思う。

本地ヶ原連合自治会は、防災のキーワードである共助の仕組みを作るために、連合自治会内の組織をいかに連携させるかという事を考えながら活動していると感じた。

瑞鳳連合自治会は、防災のキーワードである共助の仕組みを作るためのベースとなる情報伝達ができる仕組みを作るため、様々な活動をしていると思う。

今日お集まりいただいた皆様の活動は、とても素晴らしく、尾張旭市だけでの先進例ではないと感じているので、このような活動が愛知県、全国へと広がっていくことを期待している。

特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ 研究員 桜井温子 氏

市民自治をしている尾張旭市の地域活動

皆様の力の入った発表を聞くことができ感謝している。毎年楽しみに来ているのだが、今年もとても勉強になった。私は市民活動団体の支援等がメインの仕事をしているが、自治会は本当に市民自治をしており、感心している。

旭丘連合自治会のごみの回収は、普通はマンネリ化しがちだと思うが、それぞれが当事者意識を持って担当制を作り、成果を確認している等、具体的な工夫がされていると感じた。

パークシティ三郷町内会の活動で感心したのは、大人の方から子供にきちんと声掛けできているところである。マンションだとういった活動をすることによって地域の方の顔が繋がっていくと思う。

松ヶ丘町内会の活動は、伊藤講師の話の中でもあったように、ウォーキングが桜ヶ丘町内会と合同開催されたり、参加者の方を送迎したり等とてもきめ細やかな配慮がされていると感じた。

山の手自治会の活動で達成されている自治会加入率100%は、なかなかないことであり、このように細やかに新しい仲間作りをしているというのはとても素晴らしいことだと思う。

旭台自治会は女性の方が発表していたが、女性の発表は初めて見たのでとても嬉しく感じた。具体的な言葉でアドバイスをすると気配り健康サロンのところで言っていたが、具体的ということは非常に重要なことなので印象に残った。

本地ヶ原連合自治会は、事業がとても計画的に進められており、アンケートを取り入れた部分については、普段事業に参加していない人に対しても目を向けたのだと思うが、自治会活動を広げていく上で重要なことであると思うので、素晴らしいことだと感じた。

瑞鳳連合自治会は、災害時の情報伝達のツールが整備されている。今後は、更に効果的なものを取り入れる、使いこなせる方の人数が増えていくと更に素晴らしい活動になっていくと感じる。

2. 自治会等活動促進助成事業の紹介



旭丘連合自治会

3R推進事業

平成26年度に示された「一般廃棄物処理基本計画」を受け、3R推進活動を通して、住民がゴミ削減に心掛けた生活ができるように啓発しました。

「リサイクル推進事業」「3Rポスターコンクール」「がおかエコフェス 2015」の3事業を通し、ゴミ問題を「3R」の切り口で受け止め、実践する姿勢が地域の中に定着してきました。



パークシティ三郷町内会

パークシティみんなそろってふれあい事業

本会はマンション住人で組織しているためか、日常的に住人同士の関わりが希薄であり、本事業を通して新たなコミュニティを作り上げることを目的としました。

本事業による三つのイベントを通して、これまで顔を合わせるだけだった住人と声を交わす機会ができ親近感がわくようになってきました。又、町内会・管理組合・子ども会との間に一体感が生まれてきました。



松ヶ丘町内会

健康寿命志向まちづくり

本会でも高齢者世帯が多くなっている現状を受け、皆さんが望む“びんびん ころり”の健康寿命をいかに伸ばすかの必要性を考え活動しました。

まず松ヶ丘町内会全員に「健康寿命志向まちづくり」をスローガンに掲げ、幅広く参加しやすい内容のアンケートを実施し、今年度は、その上位5つの活動を取り上げ実施しました。これらの活動を通して少しずつ健康づくり志向の関心や、コミュニケーションの場が広がりました。



山の手自治会

未来を見据えた自治会活動持続事業

他地域からの比較的若い世代の転入者の方々の自治会への加入と安心して暮らせる魅力的な地域づくりへの参加により自治会活動の将来を見据えた持続的なものとするを目的としました。

Welcome 山の手と銘打ち転入者とのふれあいの会などを実施し、未来を見据えた自治会活動として<山の手地域活性化事業>を推進しました。



旭台自治会

“サロン”活動による、「高齢者交流・支援」の事業

旭台「地域高齢者の交流・支援」を“2つのサロン活動”で推進するものです。現在の「体操G(火曜・木曜)」が共同して交流すると共に、体操が出来ない人や出不精の高齢者に「地域交流」の道をひらく狙いを持って進めています。

結果、体操Gが「火・水・木曜」と3つのグループとなり、それをつなぐサロンへの登録者数が80名を超えました。基本コンセプトは「体操・サロン活動」です。



本地ヶ原連合自治会

本地ヶ原地区の地域防災力強化指定に対応するための新規事業

住民の意識向上のため全校区アンケート等を実施し、校区全体の活動を目指しました。

2回の地域アンケート実施により地域住民の防災意識、防災対策の実態を町内会別に把握することができました。また、確実な強化が進むよう市・消防署・専門の外部の力を借りながら地域住民への防災活動の啓発に取り組みました。

備えあれば憂いなし

ポータブルソーラーバッテリー エコボックスを1つ用意しておくだけで、災害時や停電時はもちろん、キャンプやレジャー等のアウトドアでも、太陽があるかぎり、スマートフォンやパソコン、タブレット端末などの充電や、様々な電気製品への給電が可能になります。



瑞鳳連合自治会

地域防災活動等での情報活動

地域防災活動等での情報伝達は「共助」の役割の中の最重要事項であり、災害時救急時(防犯活動も含む)の地域での情報収集とその伝達方法を整備・補完することを目的としました。

事業を通して情報収集が途切れなく実行される事、又その伝達をスムーズにきめ細かく行う事が可能となり、地域住民の共有事項を増やす事ができました。

3. アンケート結果一覧

- 本日発表のデータ配布をお願いしたい。
- 「温度差」=共助の組織への参加率を上げるためにどうするか？と「自治会活動の成果物」を分けて語る必要があるのでは？（どちらとも重要）
- 数回参加したが、何時も感心して帰ります。
- 交流会で色々な所で聞いてみたいことなど存分に詳しく話をさせていただき、大変参考になりました。この企画はとても良かったと思います。
- 発表内容については非常に満足しています。
- 発表時間の持ち時間の幅を設けてほしい。
- 当活動が横展開されることを期待します。先ず、「行動ありき」でスタート！
- 町内会の役員として3回目の参加ですが、毎回参考になることが多く、次回も役員をおりでも自主参加していきたい。
- 良い活動を一般に広げる行いがより大切と感じた。
- 各町内の発表だけではなく、後の交流会でお話ができたい事・細かい事が知れてよかった！！
- 今後もエコフェスのように学生とも連携できるような取組みを増やし、地域住民の方々との交流もできるようにしていきたい。
- 地域福祉活動にも目を向ける必要が生じている。
- 大変勉強になりました。スタッフの方々ありがとうございました。

4. 報告会・交流会を終えて

総評：伊藤雅一氏（学校法人菊武学園 名古屋産業大学）

地方創生に繋がっていくモデル事例の地域活動

前半の中間報告会の講評でも話をさせていただいたが、市内外の自治会にも参考となる事例のため、取り組みが広がっていくとよいと感じている。地域づくりのキーワードとして「地方創生」という言葉があり、難しい意味だと思われるかもしれないが、具体的な内容としては、地域の課題を地域自らが解決していくというものである。言い換えれば、より暮らしやすい地域を作っていくということである。地方創生の中で「小さな拠点」という言葉がキーワードに挙げられる。この小さな拠点というのは、人口が減少し、地域づくりの担い手がいないような農山村地域を対象として、皆様が行われているような地域活動を取り入れ、暮らしやすい地域を目指していこうというものである。国の構想では、そういった農山村地域を対象として、小さな拠点を作ろうとしているが、農山村地域に限らず、都市部においても小さな拠点を作っていくというのは、非常に重要になると感じている。皆様の活動は小さな拠点、地方創生に繋がっていくモデル事例だと思うので、各地域で引き続きご尽力いただきたい。また、できたら皆様の活動を自分の地域に留まらず、他の地域にも広げていっていただきたい。私が所属している名古屋産業大学でも地域といういろいろな形で連携しており、今日の午後から開催する環境フォーラムも地域と連携して開催している。その中のあいさつでも皆様の活動を紹介させていただきたいと思う。皆様の活動が広がり、今回は7団体であった申請団体がさらに増えていき、尾張旭市の地域活動がより活性化されることを期待している。